



発行日 2013年1月1日 発行人 細川正善

編集責任者 廣澤道秀 編集担当 佐藤慧真

発行所 SOTO 禅インターナショナル事務局 〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷 5-1-3 貞昌院内

Tel. 045-843-8852 Fax. 045-843-8864 URL: <http://www.soto-zen.net/>

郵便振替 00100-6-611195 SOTO 禅インターナショナル

Vol.51

北米別院禅宗寺90周年記念号



北アメリカ国際布教並びに両大本山北米別院禅宗寺創立90周年記念慶讃法要

巻 頭

北アメリカ日系寺院のこれから

～北アメリカ国際布教並びに両大本山北米別院禅宗寺創立90周年記念法要・諸行事を通して～

北アメリカ国際布教総監部 総監 ルメー ^{だい がく} 大岳

平成24年9月8日と9日の両日、ロサンゼルス禅宗寺にて、北アメリカ国際布教並びに両大本山北米別院禅宗寺創立90周年記念法要・諸行事が厳修されました。期間中に修行された法要と数々のイベントは、全

て滞りなく無事円成致しました。日本からも、大本山永平寺監院・大田大穰老師、後堂・鈴木包一老師を初め、40名以上ものご老師様方が随喜されました。成功裡に終わった今回の記念行事ですが、私達はすでに10年後に開催される100周年記念行事を見据えております。この機会に、北アメリカの曹洞宗日系寺院のこれまでを振り返り、さらにその将来について改めて考えてみたいと思います。

曹洞宗の北アメリカ管区は、北はカナダから南はパナマまで広がりを見せ、各寺院の形態は、日系寺院（主に日系人の檀信徒を布教・教化の対象とする）と、禅センター（坐禅を中心に日系人のみならず幅広い層を対象とする）の2つに分かれています。曹洞宗の北アメリカにおける国際布教は、まず日系寺院を建立することから始まりました。そして、この曹洞宗の教えは、90年という長きに渡る期間を経て、最初の日

系寺院の建立当初のメンバーの思いを遙かに越え、北アメリカ全土にまで広まりました。現在、北アメリカ管区には、57人の国際布教師がおり、曹洞宗海外寺院として認可されている寺院は27ヶ寺、登録されている僧侶は380名を数えます。管区内の5つの日系寺院は、すべてカリフォルニア州内にあります。また、北アメリカだけでも何百という禅センターがありますが、それらの全てが認可されているわけではありません。

ロサンゼルスにある禅宗寺は、5つの日系寺院の中で最も古く規模も最大の寺院です。サンフランシスコの桑港寺がそれに続き、以下、ロングビーチ仏教会、モンテペロー曹禅寺、モントレイ禅宗寺と続きます。これらの寺院の活動は、日本の寺院とほぼ同様で主に葬儀・年回法要等を勤めますが、写経や武道・華道・茶道・太鼓といった様々な日本文化に親しみ、学ぶ場所としての機能を求められているところは、日本国内の寺院と異なる点といえるでしょう。

ロサンゼルス禅宗寺は1922年に磯部峰仙師によって建立されました。磯部師は、ロサンゼルスに住む日系人のグループによって、ロサンゼルスに寺院を建立するために招かれました。まず、彼らはリトル東京のヒューイット通りにあったレンガ造りの建物を購入しました。これが禅宗寺の始まりで、こ

の建物は以後約50年間に渡って寺院として活躍することになります。その頃、日系人はひどい人種差別にあっていましたが、禪宗寺は曹洞宗の伝統を継承する場所として、また彼らの宗教的・文化的象徴として日系人の心を支え続けたのです。第2次世界大戦の真珠湾攻撃の後、アメリカ本土に居住していた日系人はキャンプ（収容所）に監禁されましたが、それでも多くの人々は禪宗寺を心の拠りどころとしていました。戦争が終わりキャンプも閉鎖されると、禪宗寺は再び檀信徒にとって重要な場所としての役割を担い、彼らは徐々に各々の生活を立て直していきました。多くの檀信徒は、リトル東京から離れていましたが、それでも禪宗寺とその日系人社会を維持していくために絶え間ない努力を続けていました。そして1970年には、禪宗寺の建物も新しく生まれ変わりました。

何事も永久ではないということは、仏教の根本的な教えの1つであり、それは禪宗寺でも具現化されています。檀信徒

数の減少は、禪宗寺だけでなく他の日系寺院にとっても大きな問題です。日系寺院設立当初の目的と機能は、もうアメリカの現代社会には適合しません。「坐禅」をキーワードに新たな檀信徒を獲得していくのと同時に、仏教を学び、生活においてその教えを実践していくことに興味を持つ一般のアメリカ人を魅了していくことが求められています。日系人檀信徒と、日系人社会が求めるものに応えつつ、日本文化を体感しながら「禪」を実践できる場所を求めている一般のアメリカ人の需要を満たしていかなければならないのです。これは、どの日系寺院にとっても容易なことではありません。がしかし、当初は日系人のみを対象としていた日系寺院が、これからのアメリカの社会でどんな人種のどんな要望にも応えられる寺院として、成長と発展を確固たるものにしていくには、このような問題に、時間をかけて忍耐強く取り組んでいかなければならないのです。

Considering the Future of Japanese-American Soto Zen Temples in North America from the Vantage Point of the Recent 90th Anniversary of the Beginning of Soto Zen Buddhism Teaching Activities in North America and the Founding of Zenshuji Soto Mission

Rev. Daigaku Rummé
Director,
Soto Zen Buddhism North America Office

On Sept. 8th and 9th of this year, we celebrated the 90th anniversary of the beginning of Soto Zen Buddhism Teaching Activities in North America and the founding of Zenshuji Soto Mission. After many months of preparation, the combined events resulted in a great success. Many priests from Japan joined us including Ota Daijo Roshi, Kannin of Eiheiji, Suzuki Hoitsu Roshi, Godo of Eiheiji, and about forty others. However, now that the ceremonies are over it is natural for us to look ahead to the centennial celebrations in 2022. What is the future for Japanese-American Soto Zen temples in North America? I would like to reflect briefly on this question in the context of our recent celebration.

Our North America district stretches from Canada in the north to Panama in the south and a distinction can be made between temples that mainly serve the Japanese-American community and Zen centers that serve a broader mix of Americans. Japanese-American temples were the first Sotoshu institutions in North America. At present, there are five Japanese-American temples, all of them in the state of California. During the past 90 years, the Soto Zen teaching has spread far and wide throughout North America, well beyond the wildest dreams of the original members of these Japanese-American temples. We now have 57 Kokusai Fukuyoshi in the Association of Soto Zen Buddhists, with 27 registered temples, and 380 registered priests. All together, there are several hundred Soto Zen centers located throughout North America, although not all of them are registered in Japan.

Zenshuji, located in Los Angeles, is the oldest and largest of Japanese-American temples. Sokoji, located in San Francisco, is the second oldest and biggest of these temples. The other three are Long Beach Buddhist Church, Sozenji in Montebello, and Monterey

Zenshuji, located in Monterey. These temples are similar to Japanese temples in that the main functions are the same: to perform funerals, memorial services, and other annual ceremonies. They are different than most temples in Japan in that they also serve as places where various forms of Japanese arts and culture are taught and practiced, such as: shakyo, budo, kado, chado, and taiko.

Zenshuji was founded in 1922 by Rev. Hosen Isobe. He was invited by a group of Japanese-Americans living in the Los Angeles area to come to Los Angeles to establish a temple. Located in the Little Tokyo area on Hewitt Street, they first purchased a brick building which served as the temple for nearly fifty years. Japanese-Americans faced considerable discrimination at that time, so the temple provided a place for people from a Sotoshu heritage with a place to preserve and protect their religious identity and culture. After the attack on Pearl Harbor, Japanese-Americans living on the mainland were incarcerated in camps for the duration of the war. At that time, many in that community kept their belongings in the temple. When they were released from the internment camps at the end of the war, once again the temple provided an important place for the members of the temple to regroup while they rebuilt their lives. Many of them then moved away from Little Tokyo, and consequently this brought new challenges for maintaining the temple and its community. In 1970, the new temple buildings were dedicated.

Impermanence is one of the central teachings of Buddhism and it's definitely possible to see this at Zenshuji. With a declining membership in the founding families and their descendants, the question of how Zenshuji will continue is a big question. This is also true of the other Japanese-American temples. The original purpose and functions of these temples no longer matches the changing demographics and conditions of present-day America. It is our hope to attract new members by offering zazen meditation and with other ways that appeal to the general population who are interested in learning about and practicing Buddhism in their lives. Our vision is to integrate the interests and needs of the Japanese-American community with Americans who are looking for a place to practice Zen within an environment influenced by Japanese culture. This is a great challenge and will require endless diligence, perseverance, and open mindedness to ensure that these temples which now primarily serve the Japanese-American community will be able to grow and develop into the twenty-first century as places that serve people from any ethnic origin.

特集 北米別院禅宗寺90周年①

天平山禅堂プロジェクトについて

前 北アメリカ国際布教総監 ^{あき}秋 ^ば葉 ^{げん}玄 ^ご吾 (アメリカ合衆国カリフォルニア州好人庵禅堂)

一仏両祖のみ教えに基づく日本の曹洞禅が、なぜ欧米人の宗教心に浸透するのか一言で申しますと、「Just Sitting (黙照の禅)」は私たちに一個の生命体は地球、宇宙の永遠の生命と連鎖した真実の存在であることを明晰に覚醒させる働きがあり、人間活動はどうあるべきかの自覚を促す力を内包していると捉えられているからです。また、高度に文明の発達した21世紀の最大の課題は「持続可能な資源、環境、生態系」を如何に保持していくかであります。曹洞禅仏教にはその問題を解く鍵がいくつも見いだせると理解されています。そのみ教えを伝える後継者として現地の宗侶を正しく育成することが、現在の国際布教にとって喫緊の重大事であり、また現地の曹洞宗社会における大きな課題であります。

海外における曹洞禅の広がり、近年特に目を見張るものがあり、現在、海外宗侶は約700人、寺院・禅センターは約500ヶ所という教勢の状況になっています。また、僧籍登録者数の増加に加え、宗立専門僧堂での安居を終え教師補任される僧侶もおります。さらに、国際布教師の新規任命や海外特別寺院の登録なども増え、結制安居も盛んに修行されております。このように広がりを見せる曹洞禅は、各地の歴史、文化、気候、風土、慣習に順応しながら多様に展開され、それは大きな魅力でもあります。しかし、一仏両祖の正伝の仏法、禅戒一如、修証不二の妙諦を誤りなく伝えることも肝要であり、宗侶として当然身につけておくべき基本進退や威儀、鳴らし物などの共通事項を実践的に指導することも重要です。

その宗門の伝統を正しく伝え、綿密な行持を敷衍するための修行道場、それが「天平山禅堂(仮称)」です。アメリカ合衆国カリフォルニア州レイク郡の13万坪の土地に、檜材を使用した日本の伝統的な木組建築、禅宗寺院様式の僧堂を創設する「天平山禅堂プロジェクト(特別寺院設立事業計画)」は、宗門の国際布教の歴史で初めてとなる、専門僧堂設置の認可を目指しています。それは、先人諸国際布教師の方々の永年の念願でありました。

本計画は、北アメリカ、ハワイ、南アメリカ、ヨーロッパの各国国際布教総監、また曹洞宗国際センター所長からの賛同をいただいているばかりでなく、北アメリカの多数の国際布教師、教師資格者の賛同を得るに至っています。レイク郡より、曹洞禅の教えを実践する修行道場を設立する土地開発利用許可も得ております。

昨年9月には、釜田隆文前教化部長の御導師のもと、多数の宗侶の随喜、信徒や工事関係者の出席を得て地鎮祭を奉修致しました。境内に工事用の道路を敷設し、また60メートルほどの井戸を掘り、1分あたり740リットルという豊富で良質な飲料地下水が湧き出て、水を貯める大きなタンクも設置しました。現在、2013年3月までに建築許可を取得するための各棟の設計図(アメリカ側用)を作成しているところです。製材をした材木は、2013年3月にコンテナ10台、瓦はコンテナ18台を使用して船で運びます。工事は雨期明けの5月から始まります。

資金は、歓募目標額の215,000,000円のうち、大本山永平寺様、大本山總持寺様、各御寺院様、他多数より総額102,749,950円(2012年10月現在)の浄財をいただいております。

天平山禅堂プロジェクト(特別寺院設立事業計画)が完遂いたしますれば、伝統的な禅宗様式を備えた修行道場において、宗門伝統の行学を修することが可能となり、宗祖以来約800年の正統をあやまらず海外へ伝えることに繋がるものと確信しております。更には、僧堂教育担当者等が親しく交流することにより、多くの日本国内僧侶並びに海外僧侶が往来し、海外布教の活性化はもとより、全世界に広がる宗門にとっても有益であり、且つ大きな財産となり得ることと強く信じています。

何卒、皆さまの暖かいご理解、御法愛を賜り、引き続きご助力のほど、伏してお願い申し上げます。

合掌



地鎮祭の光景



釜田前教化部長の鍬入れ



井戸水の貯蔵タンク

特集 北米別院禅宗寺90周年②

禅宗寺90周年記念式典に参加

愛知県宝珠寺住職 ^{なが い じょう てん} 永井成典

私は思い出します。今から38年前に開教師として禅宗寺で大変お世話になりました。当時私は25歳でしたでしょうか。山下顕光総監、松永然道師と私が、禅宗寺の法務の切り盛りをしていましたね。あれから随分月日が経ち、禅宗寺の大切なメンバーの皆様の中にも亡くなられた方がおられます。私は、メンバーの方、役員の皆様方に変にお世話になり、良く可愛がって頂きました。開教師は給料制でとても少なく、松永然道師の奥様は、他の仕事をして家計を助け、御苦労していた事をよく覚えています。それは、禅宗寺本堂建設時に銀行からの借入金があり、その返済のために開教師のお給料の方にしわ寄せがあったのでしょうか。あまりにも少ないサラリーですから（メンバーの方は、会計報告でご存知でしょうが）、婦人会の優しいおばさんから「永井先生、背広を買に行きましょう。」とか「先生、お酒飲むんでしょ。」と私に色々な物を差し入れて頂き、サポートいただきました。その時のご婦人のお顔とお名前は、今でも忘れていません。遠く見知らぬ国のロスアンゼルスでの生活は、心細かったです。

そんなとき、特に阿部庄司理事長、北浦多賀子婦人会長には、可愛がってもらいました。他にも井上慎二氏、松本実氏、下津ハリー氏、遠藤要治氏、武良岩市氏、武良剛氏、奥津多可様、長峰秀吉氏、柴田孝正氏、山口好太郎氏、副島津屋様、広瀬登美子様…等沢山の方々に支えて頂き、今も目に浮かびます。ですから、今は亡きメンバーの方々のお名前を読み上げて、毎朝自坊でも供養させて頂いています。

永平寺監院 大田大穰老師、前教化部長 釜田隆文老師、南アメリカ国際布教総監 采川道昭老師、北アメリカ国際布教総監 ルーメー大岳老師、各大導師のもと、90周年記念法要が厳粛に執り行われ、関水俊道老師の記念法話を頂き、9月7～9日の3日間が無事円成致しました。沢山のメンバーの方々、記念式典にあちこちから随喜された僧侶の方々と、すごい賑わいで、晩餐会も盛大に執り行われました。

わたくし事ですが、私は、このロスアンゼルスで妻と知り合って結婚することになり、別の意味で思い出深い地でもあ

ります。今回の式典に妻と同席できたこと、また息子（成道・駒沢大学仏教学部3年）も夏休み中の良い機会でもあり、記念式典に随喜させて頂き、良い研修になったことと思っています。一人息子の成道は、8歳の時、たった一人で飛行機に乗り、夏休みの一ヶ月間ロスアンゼルスの子の親友宅にホームステイしたことがあり、また違う意味で彼なりに特別な思いを感じたようです。このよき機会を頂いたことを深く感謝するところであります。

行事終了の翌日（月曜日）、私は禅宗寺本堂右側にある納骨堂で、今は亡き禅宗寺檀信徒の皆様心に心をこめて「観音経」を読経し、一人ひとりのお名前を読み、ご供養させて頂きました。とても懐かしいお名前・お顔も浮かんできました。胸にこみ上げる気持ちで一杯になりました。

故井上上どり女史のお名前の際には、優しくプレートを撫でたほどでした。お参り出来て本当に良かった。有難うございました。そのあとお昼から、小島先生の案内で故山下総監の墓前に読経致しました。心の中で、「山下先生のご指導があつて私は今ここに居る」事を申し上げ、生前のご恩に感謝をし、深く頭を下げて来ました。

今回の式典参加にあたり、小島先生、武良剛ご夫妻様、長峰ご夫妻様には厚いご厚情を頂きました。感謝申し上げます。

「母を訪ねて三千里」というお話がありましたね。愛知県からロスアンゼルスもその位離れているかな。いやもっとかな。母のように思う阿倍さつきさんは、足腰が弱ってきた中、そのお話を思わせるようにわざわざお顔を見せて下さり、本当に嬉しかったです。その時一緒に撮った写真は、私の事務所の壁に飾ってあります。禅宗寺茶道部の山下弘美さんをはじめ、部員のみなさまに再会でき、嬉しかった。時の流れは速く、アッという間に90周年。その中で本当に沢山の御縁を頂きました方々と本当に短い時間を共有し、楽しい時間を過ごせた事は誠に有り難いことです。

これこそ一期一会ですね。この事はそれぞれの心の中に残って宝となりましょう。100周年も行きますよ。皆さん元気で待っていてください。



晩餐会に於いて①



晩餐会に於いて②



懐かしいメンバーと共に

特集 北米別院禅宗寺90周年③

禅宗寺創立90周年記念行事に参列して

福島県長楽寺住職 ^{なか の じゅう こう} 中 野 重 孝

平成22年秋、教団の派遣で北米特派布教巡回に従事することになり初めて米国に参りました。その折、ルメー大岳北アメリカ国際布教総監より、平成24年に北アメリカ国際布教並びに両大本山北米別院禅宗寺が創立90周年を迎える年になるのでは是非来てほしいとの話をいただきました。

昨年その年を迎え、四月の特派布教師協議会で過去に派遣された皆さまに相談し、松尾国際課課長にも話を伝え、具体的に随喜させていただくことで調整に入りました。その結果、派遣された6名のうち5名（増田友厚・石川光学・相原昇明・島崎敬三・中野）が自費で随喜することになりました。

私たちは、9月7日出国、9月12日帰国。ロサンゼルス・ミヤコホテル4泊の日程で北米に参りました。現地での日程は、下記のとおりです。

9月7日（金）

- 17：30 禅宗寺集合。車にて会場へ。
- 18：00 歓迎夕食会（禅宗寺理事会主催）
於 エンプレスパビリオン・漢宮大酒樓

9月8日（土）於 禅宗寺

- 13：00 北アメリカ国際布教物故者諷経
導師 南アメリカ国際布教総監 采川道昭老師
- 14：00 公開パネルディスカッション（英語）
「Soto Zen 2022: Aspirations and Challenges」
モデレーター ルメー大岳老師
パネリスト 藤田一照師
ナカオ恵玉師
ウィリアム・ダンカン氏
スミ・ロンドン・キム氏

※展示（北アメリカ国際布教師、寺院紹介の写真展示）

- 17：00 カクテルアワー（晚餐会場）
- 18：00 記念晚餐会
於 クアイエット・キャノン（モンテベロー）

9月9日（日）於 禅宗寺

- 9：00 檀信徒総回向（万灯供養）
導師 北アメリカ国際布教総監 ルメー大岳老師
- 10：00 記念法話「ともに救われる道」

北米特派布教師 関水俊道老師

- 11：00 両大本山北米別院禅宗寺開山歴住諷経
導師 大本山永平寺監院 大田大讓老師
- 11：30 北アメリカ国際布教並びに両大本山北米別院禅宗寺創立90周年記念慶讃法要
導師 前曹洞宗教化部長 釜田隆文老師

引続き

記念式典 功労者への表彰状・感謝状の伝達
了而

記念写真 於 本堂正面玄関前

12：30 祝斎ランチョン（於 境内）

このように、90周年記念行事は、配役に就いた50数名の方々のご加担により滞りなく厳修されました。

私たちも総監部から配役をいただき、石川・中野が法要解説を担当し、相原が詠讃師をつとめさせていただきました。法要解説は日本語で話し、英語で通訳をするものでした。通訳は、藤田一照曹洞宗国際センター所長がつとめて下さいました。予め解説原稿をつくり、それを総監部に送り英語での原稿をつくるものでした。日本での法要解説とは趣を異にするものでありがたい経験を与えていただきました。

また、パネルディスカッションも大本山永平寺後堂鈴木包一老師のお師匠さまを偲ぶお話ではじまりました。続いてウィリアム・ダンカン氏の基調講演を受ける形で4名のパネラーが話し、フロアとの応答の後、最後にルメー総監がまとめられる充実した内容であったと感じました。

最後の日は、半日ロス市内の観光を楽しみ、夜は私たちが北米特派布教巡回でたいへんお世話になりました禅宗寺のメンバーであります出口さま（石川師の叔母様）の自宅にお招きを受け、おもてなしに恐縮しながらご友人の皆さまと共に和やかに交流を深める機会をいただきました。ご自宅から見えたロスのすばらしい夜景が今も目に浮かびます。

私たちにとっての創立90周年の行事この夜の時間をもって終えさせていただきました。皆さまにたいへんお世話になりました。

ありがとうございました。



公開パネルディスカッションの様子



記念晚餐会



出口様宅にてロスの夜景と共に

特集 北米別院禅宗寺90周年④

路遠くして馬の力を知り

岐阜県正宗寺東堂 原 田 道 一



原田老師と彰顯和尚

「路遠くして馬の力を知り、事久しくして人の心を見る。佛道は順逆の中に長遠の志を堅持するを、真実担道の人というなり。」大智禪師仮名法語 大智禪師九州熊本、菊池の聖護寺の御開山。

片桐老師の嗣法の弟子ワインコフ彰顯老師の日本での托鉢によって、龍門寺を建設に至る物語は、まだ老師から詳しくは聞いていないが、大変なご苦労があったことは、私には推察できる。

北米から片桐老師の得度を受け片桐老師の勧めで、瑞應寺の門を叩き、熊本の聖護寺と計3年の安居を終え、アイオアへ戻って、日本での体験をもとに、小さな小屋に住み、やがて坐禅堂となっていた建物を今回案内されて、北米の地に仏性の種を植え続ける誓願の足跡を、この眼で拝することが出来ました。

かつて平成8年5月7日 曹洞禅インターナショナルの協賛による飛騨高山での「ワインコフ彰顯托鉢講演会」〈地球に感謝する集い〉は、日本各地からの浄財を頂きました。その直後、老師は九州で狭心症の発作を起こし、17日間の入院、帰国後も静養をされた。その後龍門寺の機関誌DRAGON GATEの昨年新年号に「どんなに努力しても、人生は独自のリズムで流れて行きます。すべてを受け入れるという誓願はシンプルな方法なのです」その日に何が起こるかわかりません。我々の仕事は、すべてを実践し十方を受け入れると、ひたすら誓うだけなのです」僧堂工事の写真と僧堂工事完成落慶のお知らせが掲載された。

私は、片桐老師の願いの僧堂建立は、たぶん実現が難しいと思っていた。しかし、ここ数年龍門寺の七堂伽藍が着々完成の知らせを知るに及んで、今回6月思い切って渡米してアイオア州の龍門寺を拝登した。

「印象」 龍門寺の場所は、ミネソタ禅センターの初期道場、宝鏡寺からは自動車で約2時間半の距離にあるアイオア州のトゥモロコシ畑の中に牛が放牧されている、のどかで安

全な場所にある。

この地を選び、ここに建立の決意をされた老師のプロセスを現地で知るに至り、その永いこれまでの道程を拝してやまない。

ワインコフ老師はこの土地に親しく、日本建築にも深い知識と、独創的木造建築工夫のプロの知識を持って建設した。運転手と2人でクレーンも、操作しての作務。

日本の瑞應寺専門僧堂 国際禅堂、熊本聖護寺僧堂に習い、修行道場として、木造建築についての知識と新しい構想で伽藍が建設されていったことを知った。たとえば鐘楼堂の鐘は、宝鏡寺はガスボンベの切ったものを釣鐘として今日も残っているが、龍門寺は、自らの技術で米国初の梵鐘を鑄造し、毎日音声を供養されている。

日本の伝統的技術の盛んな飛騨高山の木工の専門家に見せたい建築の技術と現地産材料を巧みに使用されている。日常の行持は、瑞應寺 故栖崎一光老師 現董栖崎通元老師の全容を偲ぶ作法にて、開山堂の片桐老師、恩師栖崎一光老師の法が生き生きと現成していることを、ここを去る日の朝の朝参のご挨拶で感じ取った。まことに良き機会を与えていただいた皆様に感謝申し上げます 願わくは、安居中の皆様をはじめ、来年にかけての行事が、無事に行われ、来年6月30日 片桐大忍老師の25回忌、龍門寺諸堂完成落慶法要にご縁の方の随喜をお願い申し上げます。

高山市 正宗寺東堂 原田道一九拝



龍門寺鐘楼



山門と僧堂

アメリカ龍門寺諸堂完成落慶、片桐大忍老師25回忌法要
日時：2013年6月30日（日曜日）
連絡先（日本語可）：office@ryumonji.org
ウェブサイト：www.ryumonji.org

SZ I express

中川正壽老師一時帰国懇親会報告

11月24日(土)、浜松町においてドイツ大悲正法山興聖普門寺・アイゼンブッフ禅センター堂頭 中川老師を囲んで懇親夕食会が開催されました。

SOTO禅インターナショナルからは5名のスタッフと会員2名が参加いたしました。

ドイツ普門寺は、日本曹洞宗の伝統に根づきつつ、仏教としての禅の本質を究め、世界に開けた新しいタイプの僧堂・禅センターとしての位置を確立しています。

お釈迦様、両祖様の普遍的な教えを紹介しつつ、ともに修行していくことを目的としており、厳格な接心や仏教の深い教理を求める人から、日常のストレスからの癒しを求めてやってくる人まで、世界各国から様々な人が訪れています。

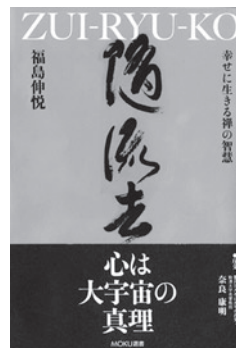
また、接心や参禅会などの国際的な修行道場であるだけでなく、禅を中心としながらも宗派にこだわらない仏教文化セミナーセンターとして幅広い活動を行っています。

一昨年より始まった4週間以上の参加を条件とする禁則安居修行など、多岐な活動についての報告をいただき、懇親を深めることができました。



中川老師を囲んで

書籍紹介



「随流去」～幸せに生きる禅の智慧～

SZ I前会長 福島伸悦師が新刊を上梓されました。多彩な経歴を持つ著者が、喜び、怒り、悲しみ、悩みといった人生におけるさまざまなシーンから、生きることの味わい深さを、禅の智慧を交えながら語り尽くします。いのちのありようとは。つながりあういのちの尊さとは。人生をより豊かなものにしてくれる一冊です。

ISBN-13: 978-4900682887

著者 福島伸悦 著 出版社 MOKU出版

型番 四六判・並製、212ページ

定価 1,575円(税込) 販売価格 1,575円(税込)

会報50号に於いて誤字がございましたので、ここに訂正させていただきます。

関係諸師にご迷惑をおかけいたしましたこととお詫び申し上げます。

SZ I会報編集

誤 国際布教を通して却下を見る
正 国際布教を通して脚下を見る

国際布教を通して脚下を見る

事務局員 亀野元彰 (神奈川県 静翁寺徒弟)

事務局員とは名ばかりの新参者が申し上げられる立場ではございませんが、会報発行等でお手伝いをさせて頂く中で、海を越えた諸老師方が植えられた仏種が、多くの方々の努力を糧に次々と花を咲かせている事に改めて気づかされます。海外で根付いたパワーのある曹洞禅には学ぶべき事が多く、今後の日本仏教にとって一つのベンチマークとなっていくと感じております。SZ Iは、これからも国際布教を通して脚下を見る大きな役割を担うものと確信しております。

会費納入者・賛助金納入者名簿 2012年7月21日～2012年11月30日まで

ありがとうございます。
大切にさせていただきます。

■ 会費納入者ご芳名

(順不同・敬称略)

長崎県 洞禅寺 中村覚道
埼玉県 楞嚴寺 稲田碩哉

東京都 岩井院
千葉県 瑞岩寺
福島県 石雲寺
神奈川県 吉祥院
千葉県

伊藤仁志
業貫成悟
尖 廣仲
佐藤仁志

■ 賛助金納入者ご芳名

(順不同・敬称略)

長崎県 洞禅寺 中村覚道
埼玉県 楞嚴寺 稲田碩哉

■ 塔婆供養で植林支援協賛者ご芳名

(順不同・敬称略)

埼玉県 東泉寺 福島伸悦
長崎県 洞禅寺 中村覚道
埼玉県 楞嚴寺 稲田碩哉
神奈川県 大蔵寺 佐藤直道
神奈川県 全龍寺

植林累計 5件 苗木 2,767本分

動 静 報 告

2012年8月20日～2012年12月31日

8月20日 会報発送作業 (貞昌院)
9月8・9日 北米別院禅宗寺90周年記念行事随喜 (北米・禅宗寺)
9月12日 役員会 (芝公園)
11月14日 役員会・編集会議・編集委員会 (檀信徒会館)
11月24日 中川老師一時帰国懇親会 (浜松町)
12月下旬 植林支援金寄託 (GNC事務局)
12月下旬 会報発送作業 (貞昌院)

※インターネットにより随時連絡会議を行っております。

編・集・後・記

北米別院禅宗寺特集の編集をさせていただいて、今までの開教師諸老師、日系人の方々が、日本文化を守ること大変ご苦労されたことを改めて知ることとなりました。

また、天平山プロジェクトという新たな事業に携わる方々の熱い思いが、長い年月をかけて成就する時、自分は何をしているのであろう?と感じました。日本にいるのか、海外にいるのか usw・・・

道秀拝

2013年 SOTO 禅インターナショナル 総会のお知らせ

2013年度 SOTO 禅インターナショナル総会は、熱海温泉にて開催いたします。

日 時 … 2013年2月28日(木)

午後3時受付

午後4時 総会開会

午後6時30分より懇親会

議 題 … ● 2012年度 事業報告 決算報告
● 2013年度 事業計画 予算案審議
● 役員改選の件
● 創立20周年記念シンポジウムの件
● その他

場 所 … 熱海温泉(静岡県)

なお、開催場所につきましては熱海駅周辺のホテル・旅館を予定しておりますが、1月中旬までに出席者にご連絡させていただきます。

会 費 … 2万円程度

ただし、宿泊なし(夕食あり)の方1万円、総会のみの方は無料とします。

お申込み … 同封の葉書にて、1月10日までにお申込みください。

SOTO 禅インターナショナル創立20周年行事について

SOTO 禅インターナショナルは、国際布教経験者有志の呼びかけによって、1993年2月に発足いたしました。大本山永平寺・總持寺と宗務庁から協賛をいただき、会員の皆様と共にボランティア・スタッフが運営する曹洞宗の国際布教、及び曹洞禅の国際交流を推進する団体です。SZI活動は、相互扶助を实践していこうという皆様、有志寺院、会員一人ひとりの願いに支えられる会費により運営されております。

2013年、創立20周年を迎えるにあたり、6月に記念シンポジウムを開催することとなりました。
ご周知をお願いいたします。

日 時／2013年6月18日(火) 14時～16時

場 所／檀信徒会館(東京グランドホテル) 桜の間

シンポジウム+基調講演形式で、国際布教の今後、課題、再構築について考える内容を計画しています。

CONTENTS

- ▶ 巻 頭 北アメリカ日系寺院のこれから ～北アメリカ国際布教並びに両大本山北米別院禅宗寺創立90周年記念法要・諸行事を通して～
..... 北アメリカ国際布教総監部 総監 ルメー大岳 1
- ▶ 特 集 北米別院禅宗寺90周年
 - ①天平山禅堂プロジェクトについて..... 前 北アメリカ国際布教総監 秋葉 玄吾 3
 - ②禅宗寺90周年記念式典に参加 愛知県宝珠寺住職 永井 成典 4
 - ③禅宗寺創立90周年記念行事に参列して 福島県長楽寺住職 中野 重孝 5
 - ④路遠くして馬の力を知り..... 岐阜県正宗寺東堂 原田 道一 6
- ▶ SZI express 中川正壽老師一時帰国懇親会報告／書籍紹介／会費納入者・賛助金納入者・塔婆供養で植林支援協賛者名簿／動静報告／編集後記 7
- ▶ 2013年度 総会・20周年シンポジウムのお知らせ..... 8